

題材【CASE 2…音楽室の怪談】

その学校の音楽室には、恐ろしい噂があった。誰もいないはずの真夜中に、ピアノを弾く音と、大勢の笑い声が聞こえるというのだ。

「なんでも、ピアノリストを目指していた女子が事故で亡くなって、その霊が弾いてるって噂だぜ」生徒の1人が友人に言った。

「それ、俺も聞いたことがある。

でも、怖いのは、それだけじゃないらしいぜ。

最初は、静かに弾いているのに、

だんだんと鍵盤を叩くような、

鬼気迫る演奏になるらしんだよ」

「よっぽど強い恨みか想いを抱いてたのかな」

不気味な笑い声と鬼気迫る演奏を想像し、

話をしていった生徒たちは、小さく震えた。

【応募作品】

いつの間にか、ピアノの音が流れていた。

ここは、真夜中の音楽室。

静かなメロデーは、しだいに叩きつけるような音に変わる。

昼間、クラスの皆に聞こえるように怪談話をしていた少年たちが、

互いに目配せして、呼吸を合わせる。

そして、少年たちは、震えながら弱々しい笑い声をあげる。

ピアノを弾く少女が、ダーンと、

力いっぱい鍵盤を叩きつける。

そして、振り返って大きいため息とともに

少年たちに文句を言い放った。

「ねえ男子たち、やる気ある？

もっと大きな笑い声を出してよ！

このままじゃ、せつかくこの学校にも根づいた、

『学校の怪談』が消えちゃうよ！！」